

## 「ノリタケの森」から名駅へ

「産業技術記念館」から「ノリタケの森」に向かった。HPによると、ノリタケカンパニーリミテドは100周年記念事業として、2001年に近代陶業発祥の地である本社敷地に陶磁器に関する複合施設「ノリタケの森」をオープンした。この森は約48,000㎡の敷地内に、「カルチャーゾーン」「コマーシャルゾーン」「ヒストリカルゾーン」という3つのゾーンを配し、緑が全体を包み込んでいる。確かに「産業技術記念館」より広々としており、緑も多く、まさに「森」という感じだ。「名古屋市都市景観賞」や「緑の都市賞」などを受賞している。産業観光の促進や都心の環境に大きく寄与しており、企業の社会的評価を高めるものといえよう。



「ノリタケの森」から名駅の超高層ビル群がよく見える。ノリタケ本社の近くに見えるのは、「ルーセントタワー」である。地上40階、高さ180mのオフィスビルで、オフィスの床面積では名古屋で最大となる。竣工は2007年1月の予定であり、まもなく竣工する「ミッドランドスクエア」とともに、名駅のビジネス拠点化に大きなインパクトをもたらす。それにしても1999年12月竣工の「タワーズ」以降の名駅地区の変貌が目立つ。「産業技術記念館」や「ノリタケの森」も活用して、ビジネスだけでなく、まちづくりや観光面からも積極的な施策を期待したい。 (2006年8月23日 記)

